HOKUGA 北海学園学術情報リポジトリ

学校法人北海学園
北 海 学 園 大 学
北 海 商 科 大 学

タイトル	献辞(2)
著者	千葉，宣一
引用	北海学園大学人文論集，26・27: xi-xii
発行日	2004-03-31

Hokkai-Gakuen Organization of Knowledge Ubiquitous through Gaining Archives.

献　　辞　　千葉宣一先生

千葉宣一先生は平成6年4月に着任され，現在に至って本学の教育・研究面に多大の貢献をされてこられた。

先生は昭和28年北海道大学文学部文学科を卒業され，同年北海道大学大学院文学研究科修士課程に進学，昭和30年に同課程を修了されている。

先生の職歴は，昭和30年～41年，道立札幌工業高等学校教諭。同41年～42年，道立札幌月寒高等学校教諭。同42年～43年，北海道工業大学講師。同43年～44年同大学助教授。同44年～48年，帯広畜産大学助教授。同48年～平成6年，同大学教授。同6年同大学停年退官とともに同大学名誉教授の称号を授与され，この間に北海道女子短期大学，帯広大谷短期大学，帯広高等看護学院，北海道教育大学釧路分校，北海道大学文学研究科等の講師を兼任され，また平成元年～2年には中国北京日本学研究センターに客員教授として赴任されている。

本学には人文学部教授として着任。比較文学系科目を担当され，平成11年に本学文学研究科修士課程，同13年には同研究科博士課程担当教授として現在におよんでおられる。

学生時代から『北大季刊』等に詩を発表し，昭和32年には『詩学』新鋭詩人特集に選ばれた若き詩人千葉宣一が，学匠たるべく美的価値体験・文学研究の本来的方法の模索に長く沈潜した後，該博な知識と膨大な文献資料の上にたつ，きわめて禁欲的にしてかつ重厚なる論考「日本における未来派の紹介と影響（上）」（国語国文研究）・「江戸時代における西洋詩の受容状況」（同）を相次いで世に問い，衆目の集まるところとなるのは昭和41年であった。以来40年余，世界文学の一環としての日本文学の民族的特徴や国際的普遍性の有無を客観的に解明するために比較文学的方法を重視して，日本文学の史的形成に及ぼした外国文学の影響，海外における日本文学の受容，モダニズムの比較文学的研究を核とする学的遍歴を重ね，主著

『現代文学の比較文学的研究』(昭和53年)・『モダニズムの比較文学的研究』(平成10年) のほか多くの著書・論文を刊行・発表されている。

この『現代文学の比較文学的研究』は海外にあっても日本近現代文学研究を志す若い研究者には必読の文献として知られ，1997年には中国の代表的日本文学研究者，葉謂渠氏等による本書の中国語訳が中国社会科学出版社から刊行されている。さらによく知られているD.キーン氏との長年にわたる親交をはじめとする国内外での多面にわたる活躍の中で，とりわけ著しい対中国の場合を『モダニズムの比較文学的研究』の「あとがきに代えて」によりながら一瞥しておきたい。平成元年の北京日本学研究センターへの客員教授としての赴任以降，先生の中国への傾斜は急速に深まり，中日関係史学会 (1989)，中国和歌俳句研究会 (1990)，中日美 (米) 三島由紀夫文学研討会 (1995) 等々，中国での学術講演・発表を意欲的に重ね，なかでも翻訳掲載された「中日戦争与昭和文学」(「中国中日関係史研究」1990) は，改革解放期に入って一段と盛んになった日本研究に大きな刺激を与えることとなった。またこの間に中国で刊行された『三島由紀夫文学系列』全10巻，大江健三郎作品集』全5巻，『川端康成文学系列』全10巻，『安部公房文集』全3巻等の日本代表編集顧問をつとめられている。さらに平成7年には中国北京市社会科学院 (日中関係研究中心) 名誉教授の称号を受けておられる。

海は満つることなし！ (上記「あとがきに代えて」の結びのことば)

(野坂幸弘)